

# VI 付 録

## 1 三輪区関連年表

西暦	和 暦	事 項
0765	天平	神護元年9月 新抄鶴格符に「摂津25戸神封」の記録
1324	元亨 04	*公文職補任状 松山荘
1336	建武 03	*森本為時軍忠状
1352	文和	文和年間(～1355) *この頃、松山弾正 宮方代官としてこの地に来る
1361	康安 01	09 摂津国松山氏は香下城に
1573	天正 01	03 来迎寺(三輪) 慧善 開基創建
1582	10	*山崎氏三田へ転封
1591	19	*摂津国一國高郷改帳並領主付名附に三輪村 605石1斗8升
1605	慶長 10	*慶長国絵図の三輪村 605石1斗7升9合
1621	元和 07	*林道春「摂州有間温湯記」に三輪神社の記述
1633	寛永 10	*九鬼久隆三田へ移封
1648	慶安 01	*「摂津国郷帳」 900石5斗3升6合
1663	寛文 03	*三輪神社へ神鏡1面献納 大久保出羽守
1667	07	*三輪大明神再建
1682	天和 02	03 三輪神社上仮屋棟札 大工穴山家賢
1694	元禄 07	*拝殿棟札 大工日原光広
1701	14	*九鬼隆方 三輪神社の石鳥居 建立
1701	14	11 九鬼隆方「三輪大明神縁起」1巻を菅原長義に委嘱、奉納
1718	享保 03	01 九鬼隆抵 石燈籠(三輪神社) 寄進
1729	14	05 三輪神社石鳥居 銚額面「三輪明神」寄進 字は佐々木文山筆
1737	元文 02	05 三輪神社へ拝殿額献納 大久保出羽守
1748	延享 05	03 来迎寺の宝篋印塔建立
1771	明和 08	06 三輪神社 神輿を制作
1773	安永 02	*「国作命旅所」の碑 建立
1776	05	05 来迎寺 真宮宗から曹洞宗に改宗
1777	06	*金幣1基 松山荘氏が三輪神社に寄贈
1789	天明 09	*神田惣兵衛 三輪天狗ヶ鼻に築窯
1799	寛政 11	*来迎寺庫裡再建
1800	12	08 三輪神社へ銅板巻華寄進 氏子中
1803	享和 03	01 三輪神社へ石燈籠2基寄進 九鬼求馬ほか
1815	文化 12	*勢住寺再建
1817	14	*三輪神社棟札 訴訟のとき京都御室御所紛失
1825	文政 08	*波宇也踊りの木箱裏蓋に墨書
1826	09	09 三輪明神社表参道石段を「神田焼物中」寄進
1846	弘化 03	02 三田青磁蓮上(手数料)についての記述
1848	05	03 上野吹上で正覚寺の鐘鑄造
1854	安政 01	12 三田藩 上野ヶ原で銃陣訓練
1857	04	10 草場の慈照院が廃寺に
1865	元治 02	03 三輪神社前道路の「花山院道」道標
1867	慶応 03	*三田藩が三輪村などに郷校設置(～明治3)
1867	03	*ふとん太鼓 水引募取納箱の墨書
1868	04	*亀居貞次郎 父母の陶墓作り、来迎寺に納める

西暦	和暦	事 項
1869	明治 02	06 三田藩主・九鬼隆義 版籍を奉還 11 三田百姓一揆起こり、農民が上野に集結
1871	04	07 鹿藩置県でこの地方は三田県に、11月に兵庫県に合併
1874	07	08 三輪村と三輪町が合併
1877	10	*兵庫県が地券を発行(区で三輪村上野ヶ原などの地券 62枚を保管)
1878	11	02 三輪校、三田小に併合
1879	12	*郡役所を置く
1883	16	07 三輪村戸長役場設置
1886	19	06 三輪村他 10か村戸長役場となる
1887	20	*ふとん太鼓水引幕修理(35年も)
1889	22	*芝虎夫 明神窟を独立経営 04 三輪村になる(11村合併)
1893	26	*県下風水害被害につき三輪から1円寄付
1896	29	01 三輪貯金銀行創立
1898	31	05 区有文書に「原野人名簿」
1899	32	01 阪鶴鉄道 三田まで開通
1900	33	01 三輪神社本殿の屋根修理
1901	34	04 三輪村消防組公設設置認可を受ける。組頭認谷利吉任命
1903	36	04 三輪尋常小学校 開校
1904	37	*三輪村青年会発足
1906	39	05 上野ヶ原 白土乾燥場として借す
1907	40	07 上野ヶ原 馬の競神場として年9円で借す 08 区有文書に「原野掛金簿」
1908	41	04 川舟を県に寄贈。県知事より表彰状を受ける 舟の使用は三輪村消防組に払い下げ 05 三輪で「風紀改良申合わせ」決める 08 三輪貯金銀行 三田銀行と合併
1910	43	07 三田停車場北に三田発電所設立
1911	44	*三輪村の公会堂建設
1913	大正 02	*三輪村で新式ポンプ購入
1914	03	*芝虎夫 大正天皇即位記念に青磁を焼き献上 *芝虎夫 奉祝具須酒盃を焼き村民に配布 02 三田魚菜市場設立
1915	04	07 消防器具庫等新設、600円、16坪
1918	07	12 三輪区の戸数 184戸、人口 894人
1919	08	*この頃、三輪村役場新築 *三輪神社大鳥居居前に三輪村道路元標設置 08 三輪村で「葬儀飲食廃止申合」決める
1921	10	この頃 県道上後川線開通 04 上野ヶ原 壁土用土砂採取場として貸す
1923	12	*三輪村婦人会発足 04 三輪区が天満神社へ幔幕2張り寄贈 09 関東大震災で三輪区が寄付
1924	13	07 桑原から三輪区に武庫川の水利権の関係で揚水機の設置許可の申し入れ 10 三輪消防組の旗新調
1925	14	05 北但地震で三輪区が寄付
1926	15	*郡制廃止 *上野の忠魂碑建立 01 「三輪大明神縁起井寺社堂記」筆写
1926	昭和 01	この頃、三輪区の戸数 173戸、人口 846人
1928	03	三輪村が町制施行 三輪町に

西暦	和暦	事 項
1928	昭和 03	*神戸有馬電鉄開通 (湊川～三田間) 04 ガソリン手挽きポンプ購入、2100 円 05 三輪神社正遷宮～7 日まで
1929	04	04 六甲村の佐藤満と三輪区で上野ヶ原原野 仮契約 09 有馬ゴルフ倶楽部と賃貸契約締結年 1000 円
1930	05	01 三輪神社 郷社に昇格 04 有馬ゴルフ倶楽部 開場 06 桑原区と三輪区で武庫川からの揚水について覚書 10 新町の太鼓が三輪の二基の太鼓に挟まれてけが人出る
1931	06	06 三輪区と川除区との水争い解決
1932	07	04 大井元の水利用で溝北区と覚書
1933	08	*この頃、三輪明神堂 廃堂となる
1934	09	*三輪区の世帯数 235 戸、人口 1170 人 07 午前 8 時より 11 時まで三輪町防空予行演習を行う
1935	10	*「三輪町郷土史」編纂 北中鶴蔵 06 「三輪郷土史」第 2 巻編纂 北中鶴蔵
1936	11	*有馬ゴルフ倶楽部 関西ゴルフ連盟に加盟
1937	12	05 三輪郵便局開局 09 国防婦人会三輪分会 発会式を举行 分会長菅田真寿
1938	13	*傷痍軍人療養所 創設
1940	15	08 関西ゴルフ連盟から「戦時下につきゴルフ自粛」の通知
1941	16	09 三輪町簡易水道給水開始 12 有馬ゴルフ倶楽部 「有馬打球練習倶楽部」と改称 12 上野開拓地に鉄入れ式を举行
1942	17	02 戦時協力で家庭の金属を供出
1944	19	03 有馬ゴルフ倶楽部 兵器廠の燃料貯蔵所となる 05 ゴルフ場との借地契約を解消、事実上解散 05 上野ヶ原開墾地作業開始 08 尼崎市難波国民学校 (初 3 男) の学童疎開 来迎寺らに
1945	20	04 上野ヶ原陸軍燃料集積所を拡張 07 三輪町の松根油工場で火災発生 07 米空軍機米襲 機銃掃射で三輪小学童ら 4 人死亡 09 上野ヶ原 陸軍との賃貸契約を解除 10 武庫川 正宗堤防決壊、大洪水 11 尼崎の集団疎開児童 帰郷 12 有馬ゴルフ倶楽部跡地を日本建設の食料自給農場として貸す
1946	21	02 神戸銀行駅前支店で新紙幣と交換
1948	23	01 三田町・三輪町組合警察署設置
1949	24	*県農林部開拓課が上野ヶ原を調査 05 三輪区婦人会再結成 10 有馬ゴルフ倶楽部跡地 日本建設経営不振のため返還 10 県に上野ヶ原開拓地反対を陳情
1950	25	01 木下正一と酪農地として賃貸契約 12 三輪基督教会が満手から三輪に移転
1951	26	10 三田・三輪町警察事務組合を解散
1952	27	*三田天満神社正遷宮に 5 反横 2 本奉納 05 講和並びに町制実施 25 周年記念行事を開催 09 草場地蔵の開眼供養開く
1953	28	*三田郵便局上野分室が開局 01 三輪区と三田ゴルフクラブ 戦後改めて土地賃貸借契約

西暦	和暦	事 項
1953	昭和 28	08 三田ゴルフ場 再開
1954	29	* 地家の太鼓を修理
1955	30	* 三輪公園の造成
		04 三輪明神正遷宮ー 11日まで
1956	31	09 三輪町 町議会で5ヶ町村合併を議決
1957	32	06 三輪明神前の道路廻所の拡幅完成
		11 三田ゴルフクラブ関西ゴルフ連盟に再加盟
1958	33	07 市制施行で三田市に
1959	34	01 市庁舎位置でもめ、結局三輪の田地に決定
1960	35	03 市役所庁舎落成・市制町村合併祝賀会
		10 宝塚索道管 三輪区内で操業を開始
		12 三輪財産区議会を設置
1961	36	06 三住鋼業が操業開始
		10 分室から三田上野郵便局に昇格
1962	37	* 三輪神社石鳥居 道路改修にともない移転
1963	38	11 三木信用金庫 三輪区内に開設
1964	39	07 三菱電機が操業開始
1965	40	12 三輪会館 竣工
1966	41	02 三輪農協 三輪区内に移転
1969	44	06 御旅所地下に防火水槽設置
1970	45	06 菱電化成が業開始
1971	46	* 三輪神楽 三田市民会館落成記念で舞う
1971	46	* 城山公園 造成開始
1971	46	05 三輪老人クラブ再発足
1972	47	* 三輪明神廃棄掘調査実施 (2ヶ年計画)
		03 神戸銀行三田支店 三輪区内に移転
1974	49	03 三輪明神竈第1号竈 県指定文化財となる
		06 区内の世帯数 553、人口 1977人
		08 三輪区広報「みわのさと」第一号発行
		08 三輪ジュニア 県少年野球三田地区大会で優勝
1975	50	08 芦屋浜の「ふるさとづくり夏祭り」で三輪の横差し披露
		08 県選抜少年野球三田市予選 三輪が連続優勝
1976	51	04 蒸気機関車D 51 市役所前駐車場へ 脱の大輸送
		11 大和・大神神社で三輪神楽奉納
		11 三輪ファイターズ優勝 (丹有地区)
1977	52	* 13 組内に防火水槽設置
1978	53	* 旧社務所取り壊し
		07 城山運動公園の野球場完成
		10 城山運動公園陸上競技場オープン
1979	54	* ゴルフ場開場 50周年記念横差し
		* ふとん太鼓の台車を新調
		01 国立民族学博物館で三輪の「しめ飾り結び」永久展示
		03 木下正一との裁判で和解成立
		08 三輪ファイターズ県大会出場
		12 三輪神社社務所竣工
1980	55	* 子ども御輿二基新調
		* 市消防操法大会優勝
		03 ニチイ三田店 三輪区内に進出
		04 正遷宮挙行
1981	56	* 三輪神楽 北摂地区起工式に出場

西暦	和暦	事 項
1981	昭和 56	*城山体育館完成 11 大和銀行三田支店 三輪区内に開設
1982	57	*三輪会館北隣駐車場完成 05 杉内義夫 勲5等双光旭日章 受章 *福知山線複線電化
1983	58	10 藤の台自治会 三輪区23組に編入 02 新住居表示実施
1984	59	04 来迎寺本堂落慶法要
1985	60	05 横さし「くにうみの祭典に出場」
1986	61	04 下池改修工事 04 茶碗山ゲートボール場完成 06 上野地区に上水道給水 07 集中豪雨であわや武庫川決壊 09 三輪神社石段を改修 11 福知山線電化フェアに三輪のふとん太鼓出場
1987	62	*徳間池を埋め立て公園・駐車場に整備 04 J R線、複線電化祝賀パレードに三輪のふとん太鼓参加 09 三輪小 工事現場から弥生時代遺跡 09 消防操法小型ポンプで優勝 09 農協年金大会で三輪のゲートボールが初めて優勝
1988	63	*三輪婦人会が国民年金の取り扱いで「社会保険庁長官賞」 02 D 51 市役所前から北摂中央公園へ 08 ホロンビアで横さし参加 11 三輪南部土地改良事業が完工
1989	平成 01	*三輪地区内で下水道工事開始 04 中兵庫信用組合ゲートボール大会で三輪が優勝 09 神楽 生田神社で奉納
1990	02	08 三田ゴルフ場開場 60周年記念で三輪の横さし披露 11 神楽加賀一の宮で三輪神楽を奉納
1991	03	*秋祭りの日程変更についてアンケート調査
1992	04	10 御旅所の玉垣が改修 05 三輪区が三田市「ふるさとづくり賞」を受賞 07 来迎寺の陶器製墓が指定市文化財に 11 区内の連続不審火で深夜に警戒パトロール
1993	05	*北海道南西沖地震募金に10万円寄付 02 三菱銀行三田支店が区内に開設 02 区内の製材所が不審火で全焼 04 ゲートボールで世代間交流はじめる 08 三輪神社境内で盆踊り復活
1994	06	*5組を4つに分割し新組織生 09 三輪神社壇尻水引幕1千万円かけ大修理 11 三輪耕田遺跡 弥生時代の焼失住居出土
1995	07	01 阪神大震災で石島居被害 07 神社大島居完成
1996	08	04 三輪東公園竣工 10 住友銀行三田支店三輪区内に開設
1997	09	04 三輪・宮ノ越遺跡で手あぶり形土器出土 09 三輪神社波宇也踊りが市指定文化財に 12 三輪青年団再発足
1998	10	04 三田天満神社正遷宮に三輪区から5反横3本など奉納

## 2. 歴代三輪区長一覧

年号	氏名	年号	氏名	年号	氏名	年号	氏名
明治 1	井元惣右衛門? (庄屋)	明治 34	藪内富吉	昭和 09	浮田市太郎	昭和 42	吉田敏雄
2		35	藪内富吉	10	脇内久吉	43	吉田敏雄
3		36	藪内富吉	11	脇内久吉	44	吉田敏雄
4	脇内治作? (庄屋)	37	井殿恒衛門	12	松本寿太郎	45	吉田敏雄
5	宮崎奥右衛門? (戸長)	38	坂田市太郎	13	藪内嘉十郎	46	吉田敏雄
6		39	炭谷芳太郎	14	石井欽次	47	吉田敏雄
7	福畠善兵衛 (副戸長)	40	寺本新十郎	15	石井欽次	48	吉田敏雄
8		41	寺本新十郎	16	石井欽次	49	井殿 清
9	宮崎伊右衛門 (戸長)	42	寺本新十郎	17	石井欽次	50	井殿 清
10		43	寺本新十郎	18	石井欽次	51	井殿 清
11	宮崎伊右衛門 (戸長)	44	寺本新十郎	19	石井欽次	52	竹内俊次
12	福畠善兵衛 (戸長)	大正 01	寺本新十郎	20	石井欽次	53	竹内俊次
13		2	寺本新十郎	21	宮原嘉助	54	竹内俊次
14	井殿常右衛門 (總代)	3	石井武市郎	22	山本正一郎	55	竹内俊次
15		4	石井武市郎	23	山本正一郎	56	竹内俊次
16	井殿常右衛門	5	石井武市郎	24	山見理一	57	竹内俊次
17		6	坂田寅之助	25	山見理一	58	竹内俊次
18		7	坂田寅之助	26	山見理一	59	竹内俊次
19		8	藪内嘉十郎	27	山見理一	60	竹内俊次
20		9	藪内嘉十郎	28	杉内義夫	61	竹内俊次
21		10	炭谷芳太郎	29	杉内義夫	62	竹内俊次
22	脇内治作?	11	炭谷芳太郎	30	杉内義夫	63	竹内俊次
23		12	石井永之助	31	杉内義夫	平成 01	藪内 茂
24	馬場直五郎?	13	石井永之助	32	曾谷正徳	2	藪内 茂
25		14	石井永之助	33	仲上宗太郎	3	藪内 茂
26		昭和 01	石井武市郎	34	森本正一郎	4	藪内 茂
27		2	石井武市郎	35	藤 又次郎	5	藪内 茂
28	姫本与吉?	3	石井武市郎	36	吉田敏雄	6	藪内 茂
29	姫本与吉?	4	石井武市郎	37	吉田敏雄	7	石井頼助
30		5	藪内嘉十郎	38	吉田敏雄	8	石井頼助
31		6	亀居吉之助	39	吉田敏雄	9	石井頼助
32		7	亀居吉之助	40	吉田敏雄	10	石井頼助
33		8	浮田市太郎	41	吉田敏雄		

3. 三輪区内在住者で公職選挙法に基づいて選ばれた人たち（今回の調査で判明した分のみ、順不同）

【三輪村議会議員】坂田市太郎、馬場直五郎、井殿寅吉、炭谷芳太郎、藪内嘉十郎、石井武市郎  
 【三輪町議会議員】浮田市太郎、白井八郎、乾 哲司、中西一雄、西 一郎、森本正一郎、山見理一、仲上宗太郎  
 【三田市議会議員】杉内義夫、井殿 清  
 【兵庫県議会議員】赤尾 茂  
 【歴代三輪財産区議員】

区 分	議 長	副 議 長	議 員
昭和 35	瀧 又次郎 井殿恒三郎	井殿恒三郎 山見理一 曾谷正徳	藪内 茂 寺本 昭 植野正雄 増谷龍造 杉下 亀 井殿俊次 白井 尚 井殿 清 梶谷晴雄
昭和 39	山見理一 井殿俊次	岩下三郎	杉下 亀 寺本 昭 井殿恒三郎 梶 建一 曾谷正徳 福本一美 木下正一
昭和 43	井殿恒三郎	岩下三郎	寺本 昭 梶 建一 常深正作 藪内 茂 福本一美 井殿 清 井殿俊次 白井 勝
昭和 47	岩下三郎	寺本 昭	内菌栄之 白井 勝 井殿泰章 常深正作 井殿 清 福本一美 宮崎昭三 梶 建一
昭和 51	寺本 昭	梶 建一	井殿泰章 岩下三郎 内菌栄之 白井 勝 竹内俊次 福晶清明 福本一美 宮崎昭三
昭和 55	白井 勝 井殿泰章	井殿泰章 宮崎昭三	井殿 理 岩下三郎 福晶清明 内菌栄之 寺本 昭 竹内俊次 浮田信夫
昭和 59	宮崎昭三 浮田信夫	福晶清明 井殿 理	竹内俊次 井殿泰章 寺本 昭 田中友三 浅田健一 白井 勝
昭和 63	宮崎昭三 井殿泰章	井殿泰章 寺本 昭	浮田信夫 福晶清明 日下隆三 井殿 理 竹内俊次 酒井一憲 田中友三
平成 4	浮田信夫 福晶清明	福晶清明 井殿 理	寺本 昭 扇野司郎 井殿泰章 酒井一憲 小林光男 石井顕助 日下隆三
平成 9	扇野司郎	小林光男	井殿 理 寺本 昭 酒井一憲 石井顕助 日下隆三 福晶清明 柳 昭夫 井殿泰章

執筆者・編集委員・協力者等

【執筆者】

古代・中世の三輪

印藤昭一

近世の一部（1領主と村落、青磁製造業者から村に手数料）

〃

近世の一部（その他の項）

岸田達男

明治大正期の三輪

〃

昭和前期の三輪

〃

昭和後期の三輪

〃

平成から明日の三輪

〃

付録

〃

【三輪区三役】

区長・石井顕助、副区長・酒井一憲、会計・杉内公樹（以下五十音順）

【編集顧問】

杉内義夫、山見理一

【編集専門委員】

井殿 清、浮田信夫、寺本 昭、藪内 茂

【協力関係機関】

神戸新聞北摂総局、三田ゴルフクラブ、三田市（広報課、総務課、市史編纂課、市立図書館）

三田市教育委員会（社会教育課）、三輪神社、三輪小学校、来迎寺他

【資料提供者】

石井豊子、石井茂子、井殿泰章、上中晴雄、扇野司郎、小田文雄、坂田三代子、白井豊子、杉下 勉

住田章治、竹内俊次、中後 茂、灘 保、藤井元宣、藤田鎮雄、本田右一、柳 昭夫、松下千秋

松山佐和治、三木孝一、森本正紀、脇内 澄

【編集協力者】

赤尾ハル、天野ふじ子、石井秋子、石井勝子、井殿恒三郎、井上重一、植野和男、岡尾良一、国森元  
木挽俊夫、指尾哲章、柴田桃子、白井安博、炭谷陽吉、竹内 正、田中友三、田村 強、福西亮子、  
福島清明、松林恵美子、宮崎昭三、油谷章二、山見喜久子、和田英男

主な参考資料

- 三輪大明神縁記并寺社堂記（大正十五年写）  
有馬郡誌上・下（有馬郡誌編纂管理者、山脇延吉、昭和四年）  
町勢一斑（有馬郡三輪町役場、昭和六年）  
三輪町勢要覧（有馬郡三輪町役場、昭和十年）  
三輪町郷土史卷二（有馬郡三輪校編纂、昭和十一年）  
三田市史上・下（三田市史編纂委員会編、昭和三十九年）  
兵庫県百年史（兵庫県史編纂委員会、昭和四十二年）  
兵庫県史五卷（兵庫県史編纂専門委員会、昭和五十五年）  
区広報 みわのさと1号（昭和五十年八月）〈43号（平成九年）

## あとがき

本書は、三輪区のあゆみを通史として、区の発展の模様を総合的に記述したものです。本書ができあがるまでの経過を記しながら「あとがき」に替えたいと思います。

まず、平成八年五月に「三輪区史発刊初会合」が開かれ、石井顕助区長から区内各種団体の代表者ら関係者に「三輪区史」に対する協力要請がありました。編集方針として、現在の区民だけでなく、近未来の地域住民へのメッセージとなるように、できるだけ平易な文章で読みやすい区史とすることなど基本方針を決めてスタートしました。

次いで同月に三輪会館二階奥の物置に保管されていた区有文書を市史編纂課に依頼して、整理していただきました。これらの文書が返ってくるまでの間は、区広報「みわのさと」や三田市史上下巻など三輪区関係について記述されている文献に目を通し、区内を歩いて取材しました。その後、区有文書は、市史編纂課から衣装ケース大の段ボール十七箱（二千二百七十三袋・整理番号付き）に納められて返ってきました。

資料は会館で未整理のまま保存されていて、その状態を忠実に守って整理されていますので、返ってきた箱の中の年代はバラバラの状態です。資料を一つずつ袋から出して目を通さないと、全体像が掴めませんでした。個々の紙片にすると数万枚にのぼる膨大な資料です。これを全部点検し、区史に必要なと見られる資料については要点をパソコンに入力していきましました。この作業に月日を取られ、実質執筆にかかり始めたのは九年の夏頃からでした。これらの断片的な区の資料をもとに、区史の構成をどうするか、章節の組立などで試行錯誤が続きました。そして明治の現在の草稿は、九年末にやっとできあがりましました。

少し遡りますが、ほぼ資料の点検が終わった九年十月初旬、三田市市史編纂課から資料整理順と編年型で打ち出した目録が届きました。これがもう少し早く届いていれば必要な資料だけに目を通すことができ、時間が短縮できていたかもしれせん。しかし、市史編纂課では限られた人数で、膨大な三輪区の資料のほこりを払いながら目録を取り、さらにそれをパソコンに入力して目録を作るといのは、並大抵のことではなかったと思います。市史編纂課で、三輪区の資料整理を優先的に取り扱っていたことについて心から感謝しています。これらの目録は原稿の点検段階で大変役に立ちました。

目録の内訳を見ると、近世が一点、明治が百四十点、大正が百四十五点、昭和初期が四百二十二点、戦後が千二百十一、年

年末にでき上がった草稿をコピーして九年の大晦日の日に区の三役や、地域のことについて詳しい方々に配布して、見てい

いただきました。これらの草稿は十年一月から二月中旬の間に順次事務局に返ってまいりました。それを受けてこんどはご指摘いただいた箇所の修正、追加、削除等の作業です。これにも手間取り、出稿予定日が過ぎてしまいました。この頃、印藤学芸員から「古代・中世」の原稿が届きました。

今度は全体を通じてみると、ページ数が増え、当初予定していた本の大きさもA5判からB5判に変更し、原稿を削除する必要に迫られました。文字数も一行五十文字程度にしたかったです。紙幅の関係で関係者の意見を参考に削除した部分もあり、いざ実際できあがってみると、細かい部分で不十分なところが目に付きますが、これは、結果論でのこと。平成十年に入ってから編集の遅延と、発刊予定日との葛藤で実に身を削る思いがいたしました。

しかしながら編集していきなこともありました。特に▽明治初期の三輪小学校の存在を裏付ける新資料、▽三輪財産区の形成過程、▽戦時中の区民の生活模様を推察できる数々の資料、▽また市制施行後に市庁舎の位置をめぐって近隣区も含めた誘致合戦の裏話、▽さらには三輪神社にかかる伝統文化の伝承についてなど、これまででない幾つかの新しい事項を執筆しているときです。

本書の記載内容で十分な推敲もたらず、時間的なこともあって二回しか校正ができず、未熟な点が多々あることと思いますが、監修者の力不足とお許しいただき、今後、三輪を愛する研究家の調査、研究に託したいと思えます。

この区史が、ことあることにひもとかれ、区民のみなさんに愛読されますよう心から念じてやみません。

最後になりましたが、本書の編集、執筆に当たりまして、石井頭助区長はじめ区の役員方と三輪財産区のご理解、三輪区関係者の熱意がなければ、日の目を見なかつたことと思えます。また、編集に当たってご援助、ご教示をいただき、草稿時点以降とくにいろいろご指摘をいただいた区の編集顧問、編集専門委員の方々、資料の提供や取材時にご協力いただいた方々、並びに三輪会館の植野和男事務局長及び同職員の住田ミヨ子氏、また、度重なる修正に快く応じていただいた藤本印刷等数多くの関係者に厚くお礼を申し上げ、筆をおきます。ありがとうございます。

(平成十年五月、岸田達男)

## 三輪区史

発行日 平成十年七月一日

発行 三輪区

編集 三輪区史編集専門委員会

監修 岸田達男

発行所 三輪区(三輪会館)

事務局 三田市三輪三丁目四―三二

(〇七九五 六四 四五三八)

印刷所 藤本印刷株式会社